



## 決勝レポート

### 2026/5/23 Rd-4 鈴鹿サーキット

天候：曇り 気温：19℃ 出走台数：24台

決勝前に強く降り始めた雨の影響でレース中となったシリーズ第3戦オートポリスから1ヶ月、1大会2レースで争われる鈴鹿サーキット初日第4戦は、再び雨に翻弄される決勝となった。

12番グリッド太田選手は4ポジションアップの9番手で、24番グリッドの牧野選手は、5ポジションアップの19位でオープニングラップを周回する。

8周を終了しピットウインドウが開くと、チームは7番手走行中の太田選手をピットに呼びタイヤ交換を済ませる。これで太田選手はタイヤ交換組のトップとなり、ファステストラップを連発しながら首位 岩佐選手とのギャップを着実に削っていく。17周目に130Rでクラッシュ車両が発生するとセーフティカー（以下SC）が導入され、7番手走行の牧野選手を含むタイヤ未交換組が一斉にピットイン。すでにタイヤ交換を済ませている太田選手は、トップ奪還を狙ってフルプッシュするがわずかに届かず、岩佐選手に次ぐ2番手でSC下を走行。22周を終えたところでリスタートが切られると、1コーナーで岩佐選手を抜き首位に。牧野選手も10番手ポイント圏内で走行する。

しかし、リスタートの混乱でフラガ選手がコースアウト、野尻選手もスピンしたことで、再びSCが導入される。このタイミングで雨脚が強まったため太田選手、牧野選手ら上位陣はピットインしてウェットタイヤに交換。太田選手はドライタイヤのままステイアウトした8台の後ろ9番手走行となる。SCがピットに入ったのは28周目。残り4週の戦いとなったが、この時には雨はほとんどなくなり、ウェットタイヤ組はペースが上げられず、一時は首位を走った太田選手は7位、牧野選手は11位でレースを終えた。

#### 5：牧野任祐選手 11位

最後尾からのスタートでしたから、オーバーテイクのためにダウンフォースを減らして臨みました。そのこともありポジションアップはできましたが、ペースはまだ足りなかったですね。ドライからウェットタイヤに変える判断では、太田選手と戦略を分けるなど、今になって考えれば出来ることはもっとあったかと思います。

#### 6：太田格之進選手 7位

決勝は序盤からできることはすべてやってポジションアップし、戦略もよく一時は首位となりましたが、天候が味方しなかったというか、思うような展開にはなりませんでした。いったん首位になったことで7位フィニッシュは悔しいですが、レースペースはよかったですし、一発のスピードもあったと思います。

明日の第5戦は、予選も決勝もしっかりとまとめて今回の分を取り戻したいです。